



2022年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年8月10日

上場会社名 株式会社 安楽亭

上場取引所 東

コード番号 7562 URL <http://www.anrakutei.co.jp>

代表者 (役職名) 代表取締役社長

(氏名) 柳 先

問合せ先責任者 (役職名) 総務人事部 課長

(氏名) 町田 英之

TEL 048-859-0555

四半期報告書提出予定日 2021年8月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2022年3月期第1四半期の連結業績(2021年4月1日～2021年6月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2022年3月期第1四半期	5,257	△0.2	△848	—	201	—	98	—
2021年3月期第1四半期	5,268	35.2	△1,084	—	△1,032	—	△1,152	—

(注) 包括利益 2022年3月期第1四半期 90百万円 (—%) 2021年3月期第1四半期 △1,148百万円 (—%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2022年3月期第1四半期	46.09	—
2021年3月期第1四半期	△538.82	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2022年3月期第1四半期	21,299	4,481	21.0
2021年3月期	23,487	4,391	18.7

(参考) 自己資本 2022年3月期第1四半期 4,481百万円 2021年3月期 4,391百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2021年3月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2022年3月期	—	—	—	—	—
2022年3月期(予想)	—	0.00	—	0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2022年3月期の連結業績予想(2021年4月1日～2022年3月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	15,169	△1.1	40	—	345	—	221	—	103.37
通期	30,997	16.8	301	—	600	—	306	—	143.13

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
新規 — 社 (社名) 、 除外 — 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	2022年3月期1Q	2,139,434 株	2021年3月期	2,139,434 株
② 期末自己株式数	2022年3月期1Q	1,520 株	2021年3月期	1,477 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	2022年3月期1Q	2,137,928 株	2021年3月期1Q	2,138,050 株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料3ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(会計方針の変更)	8
(追加情報)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、新型コロナウイルス感染症の影響による消費活動の冷え込みが続いており、国内のワクチン接種が開始されたものの感染収束の見通しは立っておらず、景気の先行きは依然として不透明な状況です。

外食産業におきましては、緊急事態宣言やまん延防止等重点措置等の発出に伴う店舗営業時間短縮、アルコール提供の制限、会食人数及び時間の制限そして消費者の外出控えにより、売上および客数の減少が長期化しております。さらに、輸入牛肉を始めとする様々な食材価格の高騰により原材料コストも上昇しており、厳しい経営環境が続いております。

このような環境の下、当社グループは、経営理念である「食を通じて地域社会の豊かな生活文化の向上に貢献する」に基づき、お客様の基本ニーズである「安全・安心」に徹底してこだわった「自然肉100%」「無添加」の商品提供を堅持するとともに、店内の衛生管理を強化・徹底し、お客様に安心してご来店いただける環境づくりに注力してまいりました。お客様の利便性向上、清潔感やブランドイメージのアップを図るため、既存店舗の改装も計画的に進めております。また、弁当等テイクアウトメニューの充実、デリバリーの対応強化、メニューのリニューアル、フェア開催等により集客に努め収益力維持を図ってまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間の業績につきましては、売上高52億57百万円（対前年同期比0.2%減）、営業損失8億48百万円（前年同期は営業損失10億84百万円）、経常利益2億1百万円（前年同期は経常損失10億32百万円）、親会社株主に帰属する四半期純利益98百万円（前年同期は親会社株主に帰属する四半期純損失11億52百万円）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① 安楽亭業態

安楽亭業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数168店舗であります。内訳は直営119店舗、暖簾11店舗、FC38店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、コロナ禍に伴う営業時間短縮やアルコール提供中止の影響のカバーを図るため、お客様に外食の楽しさを実感していただけるような施策を積極的に展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェアを開催したほか、「新生活応援クーポン」「GW特別クーポン」等季節ごとの多彩なクーポン配信等によってお客様のご来店のきっかけ作りに努めました。また、昨年より販売強化しております食べ放題メニューについて「食べ飲み放題4000円サクッとコース」の提供を開始し、その他にも季節ごとに限定商品を投入してメニューの魅力向上に取り組んでまいりました。

以上の結果、安楽亭業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は20億47百万円（対前年同期比0.3%減）となり、セグメント損失（営業損失）は2億37百万円（前年同期はセグメント損失1億92百万円）となりました。

② 七輪房業態

七輪房業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は29店舗であります。内訳は直営23店舗、暖簾3店舗、FC3店舗であります。

販売促進及び商品開発につきましては、安楽亭業態同様、クーポン配信やフェア実施を積極的に展開したほか、グランドメニューのリニューアルや「ランチ限定食べ放題」「期間限定ランチ」の販売等、お客様に七輪房の魅力をお伝えするための施策に取り組んでまいりました。

以上の結果、七輪房業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は3億67百万円（対前年同期比3.5%増）となり、セグメント損失（営業損失）は48百万円（前年同期はセグメント損失44百万円）となりました。

③ アークミール

当社連結子会社である株式会社アークミールの各業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は直営143店舗であります。

なお、アークミール業態には、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス（ステーキ）」、「donイタリアーノ（イタリアン）」を含んでおります。

販売促進及び商品開発につきましては、「ステーキのどん」、「しゃぶしゃぶどん亭」、「フォルクス」の主要各業態において、安楽亭業態同様に積極的に来店促進の施策を展開してまいりました。映画「100日間生きたワニ」とのコラボフェア開催、多彩な各種クーポン配信等の企画のほか、「焼レモンステーキ」（ステーキのどん）、「桜肉しゃぶしゃぶ」（どん亭）等の季節限定メニュー販売やメニューリニューアル等、メニューの魅力向上に努めました。さらに、フォルクスの一部店舗では、モーニングメニューの提供を開始し、新たな売上獲得の試みも進めております。

以上の結果、アークミールの当第1四半期連結累計期間の売上高は27億85百万円（対前年同期比0.4%減）となり、セグメント損失（営業損失）は4億10百万円（前年同期はセグメント損失6億76百万円）となりました。

④ その他業態

その他業態の当第1四半期連結会計期間末の店舗数は9店舗であります。内訳は直営5店舗、FC4店舗であります。

なお、その他業態には、「えんらく（焼肉食べ放題）」、「からくに屋（焼肉）」、「花炎亭（焼肉）」、「春秋亭（和食）」、「上海菜館（中華）」、「アグリコ（イタリアン）」、「カフェビーンズ（喫茶）」、「安楽亭ベトナム（焼肉）」を含んでおります。

以上の結果、その他業態の当第1四半期連結累計期間の売上高は57百万円（対前年同期比10.5%減）となり、セグメント損失（営業損失）は23百万円（前年同期はセグメント損失21百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第1四半期連結会計期間末の資産は、前連結会計年度末に比べ21億87百万円減少し、212億99百万円となりました。これは、現金及び預金の減少、減価償却による有形固定資産の減少等が要因です。負債は、前連結会計年度末に比べ22億77百万円減少し、168億18百万円となりました。これは、未払法人税等の減少、未払消費税等の減少、長期借入金の減少等が要因です。純資産は、前連結会計年度末に比べ90百万円増加し、44億81百万円となりました。これは、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等が要因です。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期連結累計期間及び通期の業績予想につきましては、2021年5月14日に公表いたしました業績予想から変更しておりません。

なお、業績予想につきましては、本資料の発表日において入手可能な情報に基づき当社で判断したものであり、実際の業績は今後様々な要因によって予想と異なる場合があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,322,001	3,555,470
受取手形及び売掛金	789,745	551,443
商品及び製品	494,748	422,785
仕掛品	655	1,867
原材料及び貯蔵品	916,385	1,103,619
前払費用	373,645	387,981
その他	565,915	476,711
貸倒引当金	△4,917	△4,917
流動資産合計	8,458,179	6,494,962
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,601,289	3,530,422
機械装置及び運搬具(純額)	113,956	99,595
工具、器具及び備品(純額)	302,326	310,297
土地	6,126,249	6,126,249
リース資産(純額)	185,118	165,460
建設仮勘定	7,439	25,889
有形固定資産合計	10,336,379	10,257,916
無形固定資産		
のれん	47,071	41,370
その他	492,474	499,664
無形固定資産合計	539,546	541,034
投資その他の資産		
投資有価証券	147,767	140,787
長期貸付金	9,874	9,635
長期前払費用	305,645	296,722
繰延税金資産	274,263	212,304
敷金及び保証金	3,408,210	3,339,800
その他	34,150	33,475
貸倒引当金	△26,762	△26,738
投資その他の資産合計	4,153,150	4,005,988
固定資産合計	15,029,076	14,804,939
資産合計	23,487,256	21,299,901

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2021年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2021年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	882,865	625,532
短期借入金	4,162,493	4,651,431
リース債務	76,901	72,657
割賦未払金	255,801	258,086
未払金	445,882	451,564
設備関係未払金	43,955	49,874
未払費用	1,670,920	1,448,304
未払法人税等	323,088	51,442
未払消費税等	1,099,700	160,840
賞与引当金	109,708	112,946
転貸損失引当金	13,297	13,297
店舗閉鎖損失引当金	47,866	37,583
資産除去債務	7,447	9,442
その他	963,586	720,579
流動負債合計	10,103,513	8,663,581
固定負債		
長期借入金	6,495,184	5,750,540
リース債務	204,870	184,424
長期割賦未払金	779,316	734,115
繰延税金負債	185,546	185,870
役員退職慰労引当金	114,602	119,572
転貸損失引当金	9,539	6,215
退職給付に係る負債	457,813	438,550
資産除去債務	400,255	398,209
その他	345,411	337,320
固定負債合計	8,992,539	8,154,818
負債合計	19,096,053	16,818,400
純資産の部		
株主資本		
資本金	3,182,385	3,182,385
資本剰余金	2,472,098	2,472,098
利益剰余金	△1,281,067	△1,182,533
自己株式	△8,260	△8,484
株主資本合計	4,365,155	4,463,466
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	16,409	9,103
為替換算調整勘定	1,411	1,123
退職給付に係る調整累計額	8,226	7,808
その他の包括利益累計額合計	26,047	18,035
純資産合計	4,391,202	4,481,501
負債純資産合計	23,487,256	21,299,901

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
売上高	5,268,414	5,257,555
売上原価	1,998,029	2,096,091
売上総利益	3,270,384	3,161,463
販売費及び一般管理費	4,354,864	4,009,517
営業損失(△)	△1,084,479	△848,054
営業外収益		
受取利息	1,166	814
受取配当金	1,200	1,675
受取地代家賃	14,806	17,488
助成金収入	56,051	1,058,986
その他	10,147	6,822
営業外収益合計	83,373	1,085,786
営業外費用		
支払利息	20,454	27,637
賃貸収入原価	9,530	7,937
その他	959	387
営業外費用合計	30,943	35,962
経常利益又は経常損失(△)	△1,032,050	201,769
特別利益		
固定資産売却益	—	1,954
特別利益合計	—	1,954
特別損失		
固定資産除却損	4,428	3,745
減損損失	—	2,274
賃貸借契約解約損	56,731	6,103
特別損失合計	61,159	12,123
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	△1,093,210	191,601
法人税、住民税及び事業税	15,223	30,826
法人税等調整額	43,587	62,240
法人税等合計	58,810	93,066
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,152,020	98,534
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,152,020	98,534

四半期連結包括利益計算書
第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2020年4月1日 至2020年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2021年4月1日 至2021年6月30日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	△1,152,020	98,534
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,199	△7,305
為替換算調整勘定	△0	△288
退職給付に係る調整額	△519	△418
その他の包括利益合計	3,680	△8,011
四半期包括利益	△1,148,340	90,522
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,148,340	90,522

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(収益認識に関する会計基準等の適用)

「収益認識に関する会計基準」(企業会計基準第29号 2020年3月31日。以下「収益認識会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、約束した財又はサービスの支配が顧客に移転した時点で、当該財又はサービスと交換に受け取ると見込まれる金額で収益を認識することといたしました。

収益認識会計基準等の適用については、収益認識会計基準第84項ただし書きに定める経過的な取扱いに従っており、当第1四半期連結会計期間の期首より前に新たな会計方針を遡及適用した場合の累積的影響額を、当第1四半期連結会計期間の期首の利益剰余金に加減し、当該期首残高から新たな会計方針を適用しておりますが、当該変更による影響は軽微であります。

なお、収益認識会計基準第89-2項に定める経過的な取扱いに従って、前連結会計年度について新たな表示方法により組替えを行っておりません。さらに、「四半期財務諸表に関する会計基準」(企業会計基準第12号 2020年3月31日)第28-15項に定める経過的な取扱いに従って、前第1四半期連結累計期間に係る顧客との契約から生じる収益を分解した情報を記載しておりません。

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準」(企業会計基準第30号 2019年7月4日。以下、「時価算定会計基準」という。)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準第19項及び「金融商品に関する会計基準」(企業会計基準第10号 2019年7月4日)第44-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準等が定める新たな会計方針を、将来にわたって適用することとしております。なお、当第1四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(追加情報)

(新型コロナウイルス感染症拡大の影響に関する会計上の見積り)

当第1四半期において、前連結会計年度に記載した会計上の見積りを行う上での仮定についての重要な変更はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アークミール	その他業態	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	2,053,064	354,819	2,796,411	64,118	5,268,414	5,268,414	—	5,268,414
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,053,064	354,819	2,796,411	64,118	5,268,414	5,268,414	—	5,268,414
セグメント損失 (△)	△192,177	△44,810	△676,389	△21,320	△934,698	△934,698	△149,781	△1,084,479

(注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注)1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注)2
	安楽亭業態	七輪房業態	アーケミール	その他業態	計			
売上高								
顧客との契約 から生じる収 益	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
外部顧客への 売上高	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
セグメント間 の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—	—	—
計	2,047,533	367,064	2,785,569	57,388	5,257,555	5,257,555	—	5,257,555
セグメント損失 (△)	△237,754	△48,698	△410,436	△23,112	△720,002	△720,002	△128,051	△848,054

- (注) 1. セグメント損失の調整額は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
2. セグメント損失は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整を行っております。
3. 会計方針の変更に記載のとおり、当第1四半期連結会計期間の期首から収益認識会計基準等を適用し、収益認識に関する会計処理方法を変更したため、事業セグメントの損失の算定方法を同様に變更しております。当該変更が、従来の方法に比べて、当第1四半期連結累計期間に係る報告セグメントごとの売上高及び損失の金額に関する情報に与える影響はありません。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

「七輪房業態」セグメントにおいて、減損損失を計上しております。なお、当該減損損失の計上額は、当第1四半期連結累計期間においては2,274千円であります。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。